



にこにこ通信



院長のお話

第13号 2011・10月発行

東日本大震災に関する最近のニュースはほとんど原発事故に関連した内容がほとんどです。それほど放射線の問題は深刻な影響を東日本に与えています。特に子どもへの被ばく問題はより難しいものがあるようです。お母さん方が少しでも安全な場所、食事と考える姿を見ていると本当に「大切な我が子」という思い、切実な叫びを感じずにはられません。「100%、120%、200%安全な物を」というお母さんのコメントがそれをよく表しています。では、翻って私の診療はどうか。医療も同じようなものです。お母さんの不安や疑問にどうすればきちんと対応できるのか？私の目の前にいるお母さんも東北のお母さん達と同じという姿勢で普段の診療ができていますか？実際の診療の中では、現在解っていること、まだ解っていないこと、今現時点ではまだ判断できないこともあります。真摯に向き合って、できるだけ安心できる診療を提供できるように心がけたいと思います。

今月から2階の発達外来が児童デイサービス「キッズランド」に変更となりました。今まで通りの指導、療育を継続しますが、それに加えて、火曜日、金曜日の午前中、発達支援の必要なお子さんのデイサービス（預かりを含む）が可能となりました。子供の成長の中で、言葉の問題や「なんかよく動いて元気な子なのだと思うけれど・・・」など、ちょっと気になる子、個性豊かな子の相談があればお申し出ください。



読み聞かせ

10月も半ばを過ぎ、過ごしやすい季節になってきました。

秋といえば「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」といわれますが、今回は「読書」に注目し、絵本の読み聞かせについてお話したいと思います。「読み聞かせは良い」…そんな声を良く聞きます。幼い頃にいっぱい読み聞かせをしてもらった子は、本の楽しさを知り、本を好きになりやすいといわれています。では具体的には読み聞かせて何がいいのでしょうか？



- ① ママの声は赤ちゃんがお腹の中でずっと聞いていたとてもなじみのある声。側にいるだけで子どもは安心し、親子の絆をより一層深めていく効果があります。
- ② よりそったスキンシップをする中で、自己肯定感や自己信頼感が育ちます。
- ③ 絵本の中で繰り広げられるストーリーを通して、子どもの想像力が育ちます。
- ④ 幼い頃から絵本になじんでおくことで本への抵抗がなくなり本好きな子どもに育ちます。
- ⑤ 登場人物の喜怒哀楽といった心の変化を感じることで、子どもの心の情操教育に役立ちます。
- ⑥ 物語を一緒に文字で追うことで、子どもの中のデータベースが増え、文字や言葉の習得が早まります。
- ⑦ お話を大好きなママと一緒に追っていくなかで、物事に対しての集中力が育まれます。
- ⑧ 絵本の中で語られることの中には社会常識や生きていくうえでの大切な教訓が含まれています。

あらためてこうして読み聞かせの効果を考えてみると、古くから「読み聞かせは良い」と伝えられてきたのには、やはりそれだけの理由があるのですね。

「読んでいる途中で歩き回る」「自分でページをめくって読ませてくれない」など、なかなか親の思うように絵本を見てくれない、聞いてくれない、といった現実もありますが、根気強く続ける事で子どもは本に興味を持ち始めるでしょう。CDやテレビが良くないということではありませんが、お母さんの肉声で読み聞かせをすることによって、親子が共有の時間を持つようになる、そのことがとても大切なのだと思います。

そして最後に、一番大切なこと、それはいつでも絵本に親しめる環境を作ることです。まずはお母さんやお父さん自身が絵本を大好きになって読み聞かせをしてあげてください。何度も繰り返して読んだ本は、大きくなってからも子どもの心の中にずっと残っているはずですから…。





RSウイルス感染

冬に子どもがかかりやすい代表的な感染症です。日本では9月頃から

患者数が増え始め、12～1月のピークをはさんで徐々に減少し、3月頃に流行がおさまるのが通常のパターンです。

健康な大人では軽い風邪ですむことがほとんどですが、乳幼児では重症化するケースが高くなります。

月齢の低い子どもをもつ家庭では特に気をつけなければいけません。

【特徴】

・冬から春にかけて流行しやすい

・感染力が強い

飛沫感染(咳やくしゃみによるウイルスを吸いこむ)

接触感染(おもちゃやおしゃぶりに付着したウイルスを

触り、目や口や鼻などの粘膜から感染する)

・1歳までの50～70%が感染し、3歳までにすべての小児が抗体を獲得する

・母親からの抗体では感染を防げないためくり返し感染しながら徐々に免疫を獲得する。何度もかかる。

【症状】

感染後2～5日の潜伏期間を経て、鼻水・発熱・咳のいわゆる「かぜ」の症状からはじまります。多くは1～2週間で回復しますが、乳幼児では重症化するケースがまれではありません。

・咳～痰がからんだような「ごほごほ」「ぜろぜろ」といった咳が出る・喘鳴～喘息で起こるような「ゼーゼー」「ひゅーひゅー」という呼吸音がある・呼吸困難、呼吸数の増加～呼吸が苦しうになり呼吸数が増える

【治療】

有効な薬は今のところなく、熱・咳・痰などの症状を和らげる対症療法が基本となります。脱水症状があったり呼吸困難がひどいなど症状が重いときは、入院治療が必要になることもあります。

インフルエンザ接種に向けてのお願い

3歳未満(2回接種)(0.25ml 接種) 1回 2500円

3歳以上13歳未満(2回接種)(0.5ml 接種) 1回 3000円

13歳以上(1あるいは2回接種)(0.5ml 接種) 1回 3000円

・当日は大変混雑しますので、ご自宅を出る前に体温を測って予診票にご記入の上お持ち下さい

・お薬、アレルギー検査は一般診療時間をお願いします

【もりもとこどもクリニック診療案内】

診療時間 午前8:30～12:30

午後16:00～18:00 (土曜日17:30)

健診・予防接種 14:30～16:00 (予約制)

休診日 木曜日午後・第4土曜日・日祝日

※ 年末年始のお休みは12/30(金)～1/3(火)です

HPアドレス <http://www.morimoto-kodomo-clinic.com>

【家庭でのケアのポイント】

○ 安静・保温…暑すぎると汗をかいて体を冷やすので注意する。汗をかいたらこまめに着替える。

○ 水分補給…乳幼児は特に脱水症状を起こしやすいのでこまめに水分をとらせる。

○ 保温…冬場は乾燥し、鼻やのどを痛めやすいので加湿器などで室内を加湿する。加湿器がないときは洗面器にお湯を張ったり、室内に洗濯物を干しても良い。

○ 栄養補給…食欲がないときは無理に与えず水分で補う。果物のすりおろしやおかゆなどが食べやすい。

○ 枕を高くする・横向きに寝かせる…寝ているときに咳き込むようなら行う。

○ 氷枕・冷却ジェルシート・解熱剤の使用…高熱があるときは我慢せず医師から処方される解熱剤を使用する。

○ 経過観察…こんな症状があれば受診しましょう。

・顔色が悪くぐったりしている

・呼吸が苦しう、呼吸がいつもより速い

・痰がからんだような咳や喘鳴がする

・発熱に下痢や嘔吐を伴う

・機嫌が悪く母乳やミルクを飲まない

【予防】

◎ 手洗い、うがい～家族全員で習慣にする

◎ マスクの着用

◎ かぜをひいている人との接触を避ける

◎ かぜの流行時は人混みに連れ出さない

◎ おもちゃ、おしゃぶりは清潔にし他人と共有しない

◎ 家人は喫煙を避ける～周囲の大人が喫煙している家庭で重症化することが多い

◎ 日頃から体の抵抗力をつけておく

編集後記

去年の福岡に続き今年は神戸の学会に行ってきました!

(中華料理・スペイン料理とグルメ三昧でした♪)

講演を聞いたり他のクリニックの方とディスカッションしたり、たくさん勉強してきました。今回は絵本の読み聞かせを

載せています。今後の院内報をお楽しみに!!

